

わ

く

わ

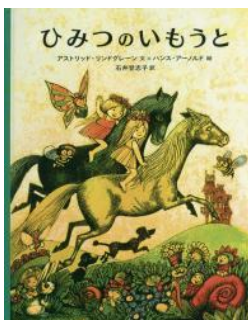
く

5月号

本

だ

な



『ひみつのいもうと』

『ひみつのいもうと』
アストリッド・リンドグレン／文
ハンス・アーノルド／絵 石井登志子／訳 岩波書店
パーブロには、ふたごの妹いもうとがいます。このことは、お父
さんもお母さんも知りません。パーブロだけのひみつです。
妹は、土の下にある金色のひろまに住んでいて、ふたりは
ほかの人にはわからない、ひみつのことばで話すのです。

えほん

K913 『てんきのいい日はつくしとり』

石川えりこ／さく・え 福音館書店
ちえちゃんたちは、おばあちゃんとつくしとりに出か
けました。すこしにがいけど、つくしはおいしい春のご
ちそうです。ことしはだれが、いちばん大きい「おうさ
まつくし」を見つけることができるでしょうか？

1・2年生



K913 『いつでもインコ』

『いつでもインコ』
齊藤洋／作 武田美穂／絵 理論社
日曜日の夜あけ、ぼくは「オラ、ブエノス・ディアス！！」
という声で目をさました。部屋の中に、はでな色の大
きなインコが来ていたのです。インコは、シエンプレとい
う名前で、36か国語を話す「ことばのまじゅつし魔術師」でした。

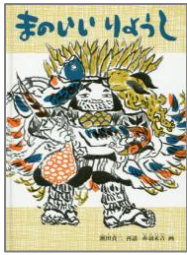
3・4年生

K953 『テオの「ありがとう」ノート』

『テオの「ありがとう」ノート』
クロディーヌ・ル・グイック=プリエト／著
坂田雪子／訳 PHP研究所
テオは、生まれつき体が不自由で、車いすの生活をして
います。だれかに何か頼むたび、「ありがとう」を言うよ
うにしていますが、ある日とつぜん、それがいやになり
ました。テオは礼儀正しくするのをやめることにします。

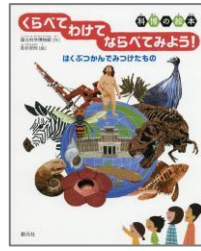
5・6年生





えほん

『まのいいりょうし
日本の昔話』
瀬田貞二／再話 赤羽末吉／画
福音館書店



えほん

『くらべてわけてならべてみよう!
よう! はくぶつかんでみつけたもの』
国立科学博物館／作
見杉宗則／絵 創元社



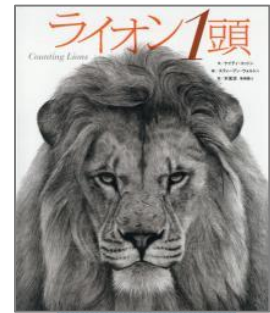
K933 『きょうはかぜでおやすみ』
パトリシア・マクラクラン／ぶん ウィリアム・ペン・
デュボア／え 小宮由／やく 大日本図書
かぜをひいたエミリーのため、パパはたいおんけいを
さがします。けれども、なかなか見つかりません。おま
けに、エミリーがいろいろなおねがいごとをするので、
パパはこまってしまいます。

1・2年生

『ライオン1頭』

ケイティ・コットン／文 スティーブン・ウォルトン／絵
木坂涼／訳 岩城義人／訳 BL出版
ここに1頭のライオンがいます。もし、これが世界にの
こった最後の1頭だったらどうでしょう?ライオンとい
う動物は、将来、いなくなってしまうかもしれません。だ
んだん数が減っている野生の動物たちを紹介し
ます。

えほん



3年生～



4年生～

K369 『天国にとどけ!ホームラン 3・11を乗り越えて、
バッティングセンターを作った父子の物語』
漆原智良／文 羽尻利門／絵 小学館
みやぎけん けせんぬまし きよひで えいた
宮城県の気仙沼市に住む千葉清英さんと瑛太くん親子は、
東日本大震災の津波で、ほかの家族を亡くしました。さびし
さをがまんして野球をする瑛太くんを見て、清英さんは、気
仙沼にバッティングセンターを作ろうと思いつきます。

ちしきの本

K454 『黄砂にいでむ 緑の高原をめざして』

高橋秀雄／作 新日本出版社
黄砂とは、砂漠から風で飛ばされてきた土で、つぶが小さい
もののことをいいます。富山県生まれの一前さんは、黄砂の発
生する中国の黄土高原に、草や木の緑を回復させる活動をして
きました。植物の力で、砂漠化をおさえる取組みを紹介します。

ちしきの本



5年生～